1．本書の特徴と活用方法

論文を執筆する際には，過去の類似論文を参考にすることが一番のコツである．しかし，そもそもどこをどのように参考にすればよいのであろうか．参考にすべきところを集めたのが本書である．本書は臨床医学論文を英語で執筆することをターゲットとし，そのために必要な情報をできるだけ具体的に示すよう編纂されている．掲載された情報のいずれもが，論文執筆に直結するはずのものなので十分に活用していただきたい．

論文には基本的な構成というものがある．決められたセクション分け（Introduction，Methods，Results，Discussion）もその１つだが，決められていない部分にも一定のパターンがある．それが本書で示す12のMoveである．もちろん論文をどのように書くのかは著者の裁量であるが，実際には論文の型というものに配慮しなければならない．おそらく母語で論文を書くのであれば，あるいはアカデミック・ライティングの基礎ができていれば，自然にできることであるのかもしれない．しかし，そのような素養が不足している場合は，ぜひ，Part1を熟読して医学英語論文の型を学んでいただきたい．そのような知識を生かしてPart2を読み，また類似論文を研究すれば，論文の型の本質が理解できるようになるであろう．

本書の構成

本書は大きく２つのPartから構成される．本書のPart1には，論文を書きはじめる前に知っておきたい情報がまとめてある．論文の流れとMoveとの関係について，日本語とは少し異なる英語アカデミック・ライティングの原則を用いて論文を書く際のポイント，論理展開の方法やその際に鍵となるつなぎ表現，時制の使い分け，引用の方法を具体的に解説してある．

Part2では，各Moveの構成上のポイントとMoveごとに特徴的な英語表現を収録してある．

Part2「Move構成と英語表現」の活用方法

Moveごとに下記の①〜④を示している．各Moveの特徴的表現を身につけることができるとともにそれぞれの場面にあった英語表現をみつけたいときには辞書のように活用できる．

①キーワード・ランキング

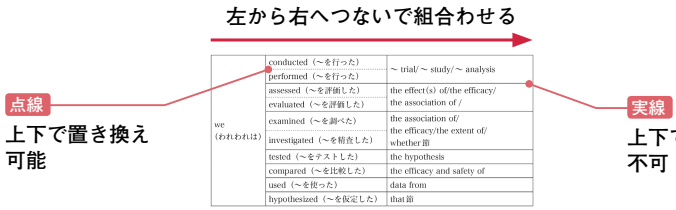
単純に出現頻度の高さを示すものではない．12のMove間を相互に比較し，それぞれのMoveで相対的に多く使われている単語を示すランキングである．ランキング内の重要キーワードには赤マーカーをつけている．

②重要キーワード

キーワード・ランキング上位単語のなかから選定した重要単語，および，それとともによく使われる単語を単純頻度順ランキングの上位から抽出したもの，との両方が含まれている．

③特徴的表現

各Moveに特徴的な英語表現．組合わせて使う単語・連語を表にして示している．縦線で区切られた単語を左から右へつないで組合わせるわけだが，横の点線（……）で区切られた部分は上下で置き換えが可能な単語を示している．しかし，横の実線（——）で区切られた部分は上下の置き換えはできないので注意していただきたい．



④例文

実際に論文で使われている例を，訳文とともに示している．

2. 分析に用いたコーパスデータについて

コーパスデータの概要

本書に示す分析に用いたコーパスデータはIshii（2015）が作成したものである[1)]．特徴としては2つある．まず本コーパスデータは医学論文に特化した特殊コーパスである点である．また作成するにあたっては，医学論文15編を分析し11のMoveを記述したNwogu（1997）を修正し[2)]，12のMoveに基づいて395編の論文（総語数約140万語）を集めた．以下概要である．

Move		NEJM	The Lancet	BMJ	AIM	語数
Introduction	Move1	8,573	10,430	11,622	8,850	39,475
	Move2	14,254	19,204	21,669	17,202	72,329
	Move3	5,563	6,739	7,411	5,927	25,640
Methods	Move4	39,346	31,895	29,947	31,555	132,743
	Move5	41,179	44,093	44,356	46,378	176,006
	Move6	31,891	37,488	41,418	34,686	145,483
	Move7	0	5,086	0	3,903	8,989
Results	Move8	93,251	79,745	79,193	68,348	320,537
	Move9	13,105	5,977	2,828	1,274	23,184
Discussion	Move10	14,627	16,435	18,385	16,708	66,155
	Move11	60,558	87,709	103,205	76,527	327,999
	Move12	7,609	13,548	20,008	9,706	50,871
語　数		329,956	358,349	380,042	321,064	1,389,411
論文数		103	96	100	96	395
期　間		2013～2014				

1）Ishii, T（2015）. Phraseological patterns in medical research articles with focus on the function of moves. MA thesis. University of Birmingham.

2）Nwogu, K. N.（1997）. The medical research paper: Structure and functions. English for Specific Purpose, 16, 119–138.

❊ ジャーナルおよび論文の選定について

ジャーナルの選定にあたっては，Impact Factorの高い臨床医学系のジャーナルとして，The New England Journal of Medicine（NEJM），The Lancet，The British Medical Journal（BMJ）およびAnnals of Internal Medicine（AIM）を選定した．それぞれのImpact Factorは，55.873，45.217，17.445，17.810であった（2014年）．論文の収集にあたっては，2013～2014年の間に出版された論文に限定し，ほぼ毎週1本ずつの割合でアカデミックレベルが高いと思われる論文を選定した．

❊ 本書に示す情報の収集方法

コーパスの解析には，コンコーダンスソフトAntConc（http://www.laurenceanthony.net/software.html）を使用した．各Moveコーパスを全体コーパスと比較し，各Moveに特徴的なキーワードを抽出した．このようなMove特異的キーワード・ランキングおよび各単語の単純出現回数ランキングの両方を勘案して重要キーワードを選定し，それぞれに特徴的な頻出英語表現を抽出した．

抽出された表現の多くはコアとなる部分表現である．実際に文を組み立てるためには，さらに具体的な情報が必要である．そこで，本書では主語や目的語などの具体的な情報の追加を行った．その際に抽出された具体的な表現については，ライフサイエンス辞書プロジェクト（https://lsd-project.jp/）のLSDコーパスを用いて確認を行い，有用性が高いと判定できたもののみを採用した．主語や目的語などにはさまざまな単語が使われ得るので，本書に示すものは使い方を理解するための代表例というべきであるかもしれない．また，実際の論文での用法を示す用例は，LSDコーパスを利用してPubMed論文抄録から抽出した．